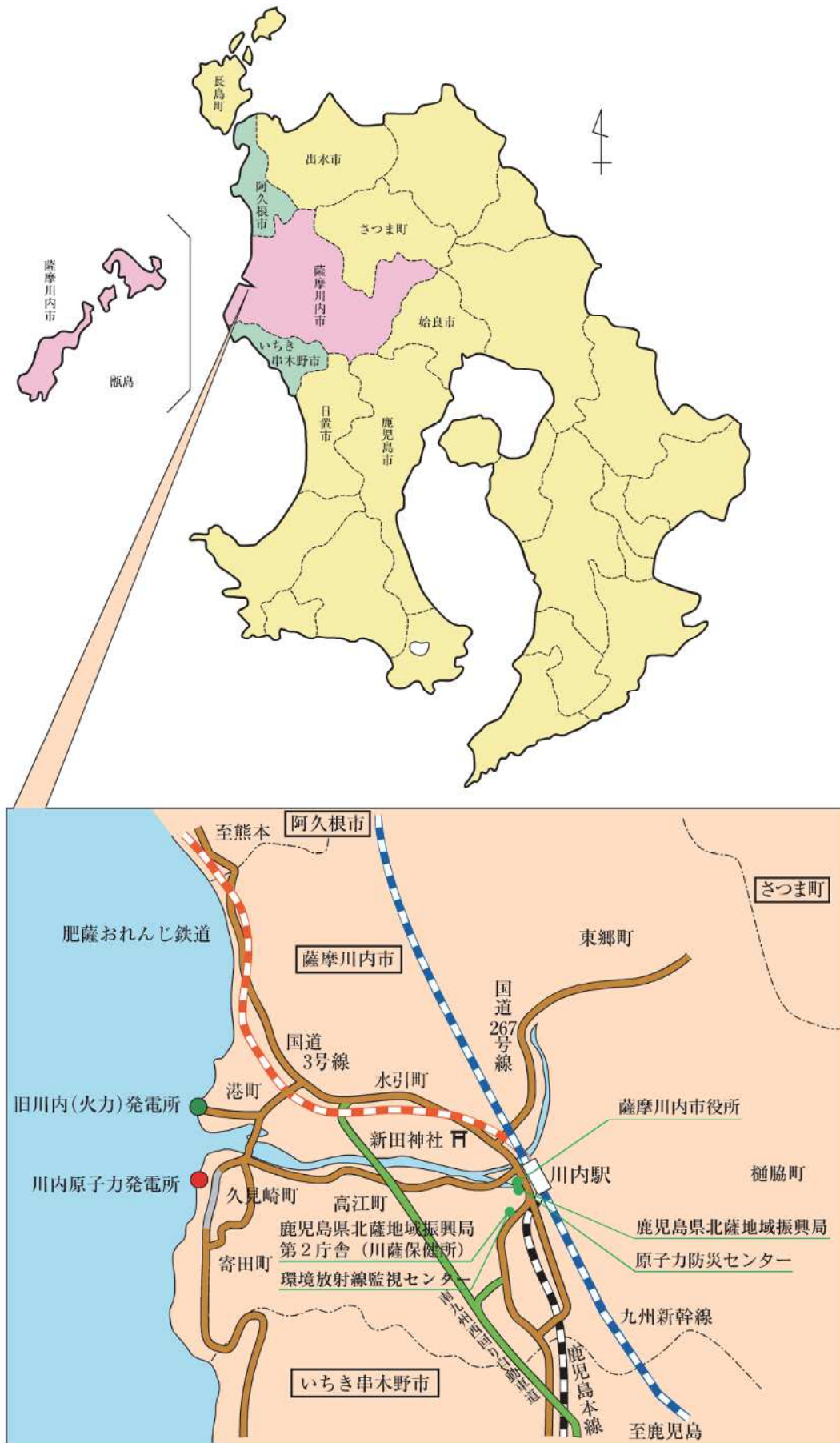


Ⅲ 参 考 資 料

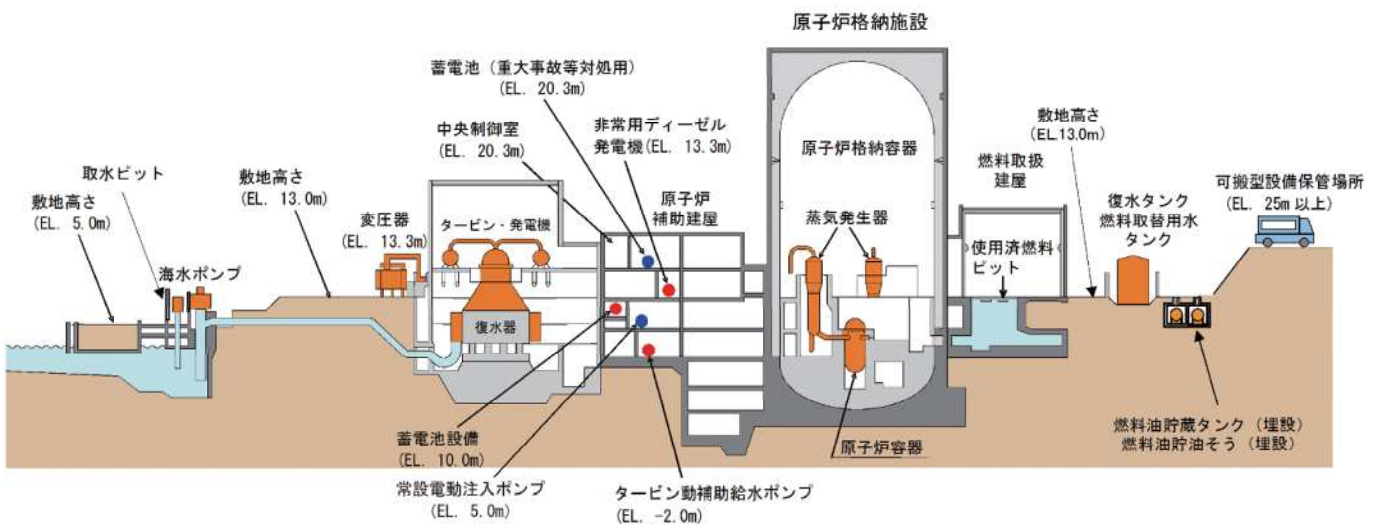
Ⅲ-1 川内原子力発電所位置図



< 発電所全体配置図 >



< 発電所断面図 >



Ⅲ－２ 川内原子力発電所の概要

川内原子力発電所は、1号機が昭和59年に全国で27番目、2号機が昭和60年に全国で32番目の商業用原子炉として営業運転を開始している。

項 目		ユニット	1 号 機	2 号 機
		所在地	薩摩川内市久見崎町字片平山1765番地3	
敷地面積	約145万m ² （埋立面積約10万m ² を含む）			
電気出力	89万kW		89万kW	
原子炉	型 式	加圧水型軽水炉（PWR）		
	熱 出 力	266万kW		266万kW
燃料	種 別	低濃縮（約4.1%，約4.8%）二酸化ウラン		
	装 荷 量	約74トン （燃料集合体157体）		約74トン （燃料集合体157体）
冷却海水量	約64m ³ /s		約64m ³ /s	
主要経緯	川内市議会・誘致決議	昭和39年12月15日		—
	建設計画発表	昭和45年 4月21日		昭和52年 3月29日
	電源開発調整審議会	昭和51年 3月12日 （第68回）		昭和53年 7月14日 （第75回）
	原子炉設置許可	昭和52年12月17日		昭和55年12月22日
	着工（基礎掘削開始）	昭和54年 1月24日		昭和56年 5月 7日
	安全協定調印	昭和57年 6月12日		
	初臨界	昭和58年 8月25日		昭和60年 3月18日
	初送電	昭和58年 9月16日		昭和60年 4月 5日
営業運転開始	昭和59年 7月 4日		昭和60年11月28日	
建設費	約2,800億円		約2,300億円	

Ⅲ－３ 原子力防災訓練当日のコメント（ぶらさがり取材）

1 知事

本日、朝7時に地震が発生したという想定の下、発災の報告を受け、県災害対策本部会議に参加し、その後、現地でいくつか施設を見させていただきました。

新型コロナウイルスが5類に移行し、多くの方々にご参加いただきました。

また、新たな取り組みとして、配車システムである「避難車両配車システム」を活用した訓練を関係機関含めて実施しました。訓練の振り返りでもありましたけれども、色んな課題もいただきました。それらのことにつきましては、今後、改善していきたいと考えております。

防災への取り組みとして、住民の方々も含め、基本的な手順を確認していくということが大きな役割だと考えています。

そういった基本的な手順を確認する中で、応用的な内容も交えながらやってみるということで、これまでもいくつかは実施しているところではあります。孤立した地域を想定した道路啓開訓練やヘリ等による住民避難を行いました。また、今回は、これまでの訓練内容だけではなく、家屋の倒壊を想定し、倒壊家屋に閉じ込められた方を救出するという訓練を行ったところで。今後もこのように工夫を交えながらやっていきたいと考えております。